

=====

美高からトータル・サティスファクションの 実現を目指して

=====校長室より

第4号「生徒会との対話」

今年度も、昨年度に引き続いて、生徒会の生徒の皆さんと、週に1回ランチミーティングを行っています。一度に生徒会役員全員は入れないため、毎回メンバーは異なります。生徒の想いを直接知りたいと私が思ったことが発端ですが、参加しなければならない、ではなくざっくばらんに心を通わせる関係になりたくて、最初は私から提案させていただきました。校長とは話しにくいという生徒もいるかもしれませんが、私は会の最初で必ず、どんな意見も否定しないこと、人の話を遮らないことといったマナーや困っていることを出し合って一緒に解決に向けて進んでいこうと共通の目的を確認しています。食事中は柔らかな雰囲気になるため、意見が出やすくなるという感覚はあるように感じています。

先々週の話は文化祭でした。生徒たちは昨年度の文化祭の状況を自分たちで話し合い、チケット制度の導入を自分たちで検討し、教職員とも協議を重ねてきました。ミーティングの最初は、自分たちに自信がなくて、「先生に説明してほしい」と教職員に頼ろうとする姿勢が見られました。自分たちで決めたことを反対されることに恐怖心があつたようです。

私は、様々な課題を先生が解決するのではなく、誰かが解決してくれるだろうと考えるのではなく、「自分たちで変えられないか？」「自分たちでできることはないか？」と考えることの大切さを話しました。つまり、学校行事を「参加するもの」ではなく、「創るもの」という意識を持ってほしかったのです。具体的には、「指示されたことだけ」「盛り上がることだけ」ではなく、「自分たちの手で、来てくれた人にどう感じてもらうか？」「自分たちの手で、どうしたら成功させられるか？」ということを考える当事者意識。これを彼らにもってほしかったのです。彼らは見事にその任を果たしています。

↓先週のランチミーティングの様子です。



これからの時代、様々なことが自分と関係があり、自分たちには社会を変える力があり、その責任もある。そういう感覚を持ったうえで、失敗を恐れることなく行動してほしい。これが、多くの人が言う「自分事化」ですよ。

「自分がやらなくても誰かがやってくれるだろう」と思うのではなく、「できるかどうか分からないが、自分たちでやってみよう」と思えるそんな彼らの姿をきつとこれから見せてくれると信じています。そして来年、再来年はそんな生徒がもっともつとあふれる学校に必ずなれると、私は信じています。